

世界遺産へ向けて—“11月”に勝山市と郡上市でイベントが2つあります！—

第1弾 白山文化フォーラム2011

—日本の神々と仏—

主催 勝山市・勝山市教育委員会

平成23年11月26日(土)開催！

第1部 平泉寺史跡見学会

今号などでご紹介した今年度の発掘調査の最新状況を見学していただけます。

■日時:午前10:00~12:00 ■場所:平泉寺市営駐車場集合→南谷発掘現場

第2部 市民フォーラム

白山には、神と仏が一体となってまつられています。それは、いつからはじまったのか？ 白山信仰の源流にせまる問題を考えます。

■日時:午後13:30~16:00 ■場所:勝山市教育会館ホール

■講演:『古代神祇祭祀(神祀り)の基本形態—神体山信仰の展開—』

達 日出典(つじ ひでのり) 氏 岐阜聖徳学院大学名誉教授

■フォーラム:神仏習合のはじまり

コーディネーター 笠松 雅弘 氏 福井県立こども歴史文化館館長

パネラー 達 日出典 氏 岐阜聖徳学院大学名誉教授

パネラー 堀 大介 氏 越前町教育委員会学芸員

第2弾 郡上市でも『白山文化フォーラム』が開かれます!!

身近な芸能を題材に、郡上の人々の深層にある白山文化について考えます。

■主催:郡上市・郡上市教育委員会

■日時:平成23年11月27日(日)午後13:30~16:30

■場所:郡上市総合文化センター文化ホール(郡上市八幡町島谷)

■講演:『郡上市のかけ踊りとその特色』 俵木 悟 氏 成城大学文学部准教授

■上演:寒水の掛踊(国選択民俗芸能・岐阜県重要無形民俗文化財) 寒水掛踊保存会

皆さまのご参加、お待ちしております!!

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No.37 (2011年10月号)

【発行】

勝山市教育委員会史蹟整備課

【発行日】

平成23年10月27日

【ご意見・ご要望は下記まで】

電話:0779-88-8113(直通)

メール:shiseki@city.katsuyama.lg.jp

発掘現場通信 —僧坊区画3の発掘調査—

平泉寺白山神社の南側に広がる「南谷三千六百坊」跡地で、6月から行っております発掘調査は、炎天下の夏をすぎ、いよいよ大づめに近づいてきました。今回は発掘調査の一端をご紹介します。



僧坊区画3のいちばん東側の調査で、石垣の裾から溝が見つかりました。この溝からは、16世紀ごろの木でできた生活用品が出土しはじめています。

木でできたものは、くさりやすく、発掘調査をしていてもなかなか見つかりません。今回調査した溝には、幸いなことに、水分の多い粘土がたまっていました。その粘土によって木が「真空パック」されていたために、四百数十年間くさらず、現在までのこっていたようです。

赤い線が溝の幅です。幅約90cm、深さ約50cmあります。木でできた生活用品は、自然の枝や葉っぱとともに、溝の底の灰色の粘土から見つかりました。赤丸は黒漆塗りの大きな鉢です。ほかに、板や箸なども見つかりました。

発掘現場通信 一僧坊区画3の発掘調査-(つづき)

現在、泥のついた遺物を洗っているところです。きれいになったものの中から、今回は木でできた生活用品のいくつかをご紹介します。



ふた?

上の写真は、板の上を取っ手がついています。四角いふたのように見えますね。大きさは10cm四方の小さなものです。

右の写真は、雪をどかす「ばんぱ」…ではありません。大きさは21cmぐらい。シャモジだと思います。ごはんやおかずをよそいわけていたのかもかもしれません。



しゃもじ

左の写真は、きれいに洗ったあとで、水につけて保管している様子です。

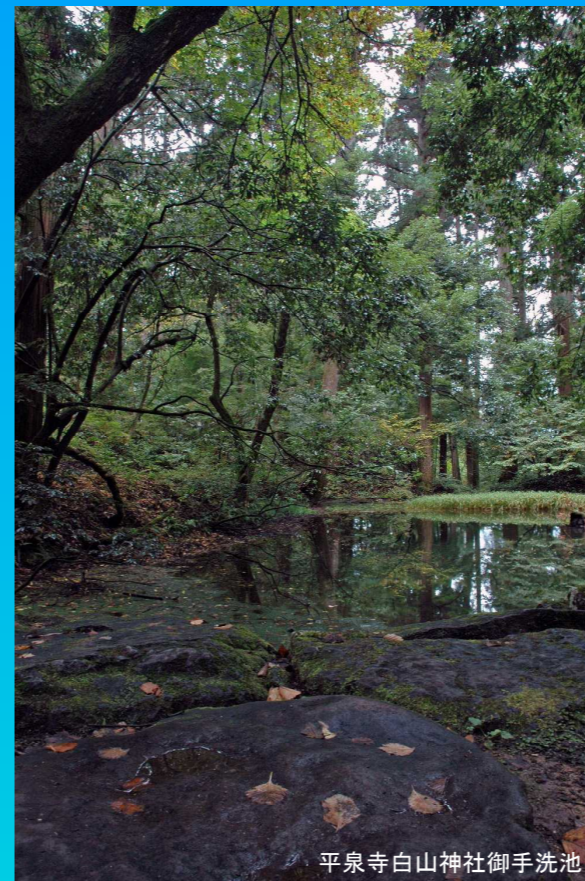
水には、薬品を入れて、カビなどが出てこないようにする場合もあります。このようにしておくと、しばらくは木もくさらずにすみます。将来的には、特殊な処理をして、展示などができるといいですね！



11月26日の白山文化フォーラムで僧坊区画3の現場や出土遺物の見学をします。

くわしくは④ページをご覧ください！

ちょっとミステリアスな… 平泉寺こぼれ話 第30話 -自然への信仰-



平泉寺白山神社御手洗池

平泉寺を開いた泰澄は、母の里「伊野原」から東の「林泉」にたどりつき、白山の女神と出会いました。それが平泉寺白山神社の御手洗池だといわれています(左写真)。御手洗池も白山神社や平泉寺の境内が整備される前から、小高い丘の中腹で水がわき出る貴重な泉であったと思われます。人びとは、古くから泉や山、森、大岩などの自然に神をみだし、おそれうやまってきました。



長尾山の泉

勝山には、平泉寺以外にも、自然に対する信仰をうかがい知ることのできるものがあります。まずは、恐竜博物館のある長尾山です。平成10年に山の中を発掘調査したとき、平安時代初めごろの須恵器杯の破片が約500点かたまって出土しました。近くには、水がわき出る泉があり(右上写真)、長尾山のふもとの集落でくらす人びとが、この泉を水源として大切に守り、お祀りを行っていたと思われます。

次に、大矢谷白山神社です(左下写真)。大岩に抱かれた社殿は最近いろんなところで紹介されています。この神社境内からは縄文時代から中世の土器が採取でき、長い間にわたる人びとのくらしや信仰がうかがえます。また、神社のすぐ下には清流が流れ、すがすがしく神秘的な雰囲気となっています。



大矢谷白山神社